

<p>団体名</p>	<p>NPO法人チャリティーサンタ</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>クリスマスを入り口とした家庭への体験支援の仕組みづくり事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>●「子どものために大人が手を取り合う社会」 社会全体で子どもたちを支え、子ども時代に自己肯定感を育む経験が、環境などの要因に関係なくどの子にも権利として与えられている社会をめざす。</p>		<p>2021年度のサンタクロース訪問の様子</p>	
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>●「子ども達に愛された記憶を残すこと」 家族での体験や誰かに認められているといった思い出を届け、自己肯定感や社会との連帯感の醸成に寄与する。 経済的困難な状態にある家庭の子どもにおいては、クリスマスやサンタクロースといった社会的認知度が高いイベントを通じ、家庭が社会と繋がる入り口としての役割を担う。 また社会の課題解決に賛同する企業・団体と一緒に事業を考え行動をとることで、相互理解を深め包括的・継続的な支援体制づくりにつなげていく。そのことにより、ビジョンにある「社会全体で経済的困難な子どもたちを支える」機運を高める。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>●人的資源：事業・事務面ともに安定的な体制を構築する。活動を支えるボランティアという人的資源を十分に生かすボランティアマネジメント体制もとれるようになっている状態。 ●物的資源：企業連携などにより、家庭へ届ける資源を増やし、また既存の支援団体にも届けられるようになるネットワークを構築できている。 ●活動資金：当法人は、物品の寄付、ボランティアは比較的集まりやすい団体になるが、一方でそれをマネジメントする人件費の捻出が課題である。活動の必要性を伝え、寄付・会費の獲得をめざすとともに、年間を通じ、安定した自主事業の収入獲得を行う。</p>			
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>①クリスマス活動を起点とした困窮家庭の掘り起こし クリスマスにサンタクロースに扮したボランティアが経済的困難な家庭に対して無償で「思い出（経験）」と「プレゼント」を届けるチャリティー活動を実施。経済的困難な家庭で準備がしにくい家族の思い出や時間を提供することで、子どもの自己肯定感を育む活動を行った。(2022年訪問家庭数：607家庭（949人）手紙等による郵送プレゼントの提供数：1458家庭、施設等訪問数：29件（698人）※連携団体による支援は含まない <総数> 2065家庭、施設等29件) ②年間を通じた体験活動への橋渡し、ならびに支援情報の提供 岡山市との連携を下地とし、またクリスマス時期の調査を通じて、困窮家庭の誕生日支援モデルの全国化を目指して準備を進め、毎月の支援情報の整理を行っている。 ③企業連携ならびに支援団体との連携 書店連携は大きく伸ばすことができた。また、GAP社では当団体との連携企画が社内アワードに選ばれ、寄付先を選定されるなどの高評価を得ることができた。また支援団体との連携も、35都道府県の120団体へブックサンタで集まった寄付の本を通じた家庭支援を行うことができた。</p>		<p>企業連携による寄付で集まっている本を活用して、各地域の子ども支援団体との連携を拡大することができた。(35都道府県120団体) それにより、当団体のボランティアが活動していないエリアの受益者にも、本のプレゼントやクリスマスの体験を届けることができた。また、コロナ禍における困窮家庭の体験格差に関する調査活動を行い、その結果を他の団体と共有することで、課題感の共有と連携の深まりに繋げることができた。またその結果、支援につながる家庭の増加もあった。(総数2065家庭) また、誕生日支援の一環として、誕生日に本のプレゼントを贈る活動を全国に広げたところ、575家庭の登録があった。各地域の支部ボランティアでも誕生日を主軸としたボランティアプログラムが組まれるようになってきており、団体の主軸としての支援として根づくようになっている。</p>		
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>誕生日ケーキやGAP社の社員のボランティア参画の企画について、全国展開モデルや展開についてのノウハウを得ることができた。 また、支援登録時のアンケートの内容について検討し直すことにより、家庭の状況や課題についてより深く知ることができ、また新たな課題も見つけることができた。 今後、家庭の支援の入り口機能を充実させるための連携団体との繋がりも広げることができた。</p>		<p>体験支援活動を通して、生活困窮家庭とのつながり、定期的にかかわる機会が増えている一方で、家庭の情報を継続して観察する仕組みがないため、家庭の変化や潜在的な困りごとに気づきにくい。また困りごとを発見できても、必要な支援に繋ぐための連携・仕組みが構築されていないため、各家庭にとって必要な支援や情報を提供できない。今後の対応として、各家庭の情報をより見やすい形にまとめ、家庭の困りごとを早期発見し、必要に応じて別の支援先へつなげる仕組みを作っていく必要がある。</p>		<p>この1年間の活動を通じて 団体との連携により、家庭の支援数の増加とネットワーク構築の基礎を作ること を達成しました。</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>		<p>知り合いのいないひとり親世帯などから「ひとりじゃないんだと年末に勇気づけられた」といった感想がいくつも寄せられ、こどもだけでなく、孤独感の中にある家庭の自己肯定感につながることを確認できた。</p>		